

学校法人 甲南女子学園  
2020 年度事業報告



CONTENTS

<b>1</b>	<b>I. 法人の概要</b>
1	建学の精神及び大学・中高の使命
1	学校法人の沿革
2	設置する学校の状況
3	学園役員（理事・監事）の概要
3	評議員の概要
4	教職員の概要
<b>5</b>	<b>II. 事業の概要</b>
5	2020 年度の主要な取り組み
5	新型コロナウイルス感染症への対応
5	甲南女子学園創立 100 周年記念事業の推進
7	国際学部の開設
8	第 5 次中期計画の策定
8	大学入試改革（中高・新学習指導要領）への取り組み
8	大学ガバナンス改革について
9	大学・大学院の取り組み
21	中学校・高等学校の取り組み
<b>24</b>	<b>III. 財務の概要</b>
24	2020 年度決算の概要
24	事業活動収支計算書の概要
26	資金収支計算書の概要
27	貸借対照表の概要
28	財務比率の経年比較
28	事業活動収支計算書関係比率
28	貸借対照表関係比率

## 1. 建学の精神及び大学・中高の使命

学校法人甲南女子学園は、1920（大正9）年に学園創立者・安宅彌吉が中心となり甲南高等女学校を創設したことはじまる。以来、建学の精神「まことの人間をつくる」のもと、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓とし、「全人教育・個性尊重・自学創造」の教育方針を掲げている。

現在も、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ個性を尊重し、自ら創造して学ぶ教育を実践し、社会に貢献できる知性と品格を備えた女性の育成に努めている。

### ❖ 甲南女子大学の使命

建学の理念を基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性を育成する

### ❖ 甲南女子中学校・高等学校の使命

建学の理念を基盤に、知性と品格を備え、人生や社会に対して前向きに取り組む自立した女性を育成する

## 2. 学校法人の沿革

1920（大正9）年	甲南高等女学校設立認可
1921（大正10）年	財団法人甲南学園高等女学校設立認可
1942（昭和17）年	旧制専攻科設置発足
1947（昭和22）年	甲南女子中学校併設認可
1948（昭和23）年	新制女子高等学校設立認可／財団法人の名称を財団法人甲南女子学園と改称
1950（昭和25）年	新制専攻科設置発足
1951（昭和26）年	財団法人を学校法人甲南女子学園に切替認可
1955（昭和30）年	甲南女子短期大学設置認可、甲南女子短期大学開学
1964（昭和39）年	甲南女子大学開学、大学を東灘区本山町田中より現在地に移転 / 甲南女子大学文学部を開設
1968（昭和43）年	甲南女子高等学校・中学校を東灘区本山町田中より現在地に移転
1974（昭和49）年	短期大学を短期大学部へ名称変更
1975（昭和50）年	大学院文学研究科修士課程を開設 / 文学部に人間関係学科を開設
1977（昭和52）年	大学院文学研究科博士後期課程を開設
2001（平成13）年	甲南女子大学人間科学部を開設
2002（平成14）年	甲南女子短期大学部を廃止
2004（平成16）年	文学部人間関係学科を廃止
2005（平成17）年	大学院人文科学総合研究科を3専攻9コースに再編
2006（平成18）年	文学部にメディア表現学科、人間科学部に総合子ども学科を開設
2007（平成19）年	甲南女子大学看護リハビリテーション学部を開設
2010（平成22）年	文学部フランス語フランス文学科を廃止
2011（平成23）年	人間科学部人間教育学科を廃止
2012（平成24）年	大学院看護学研究科修士課程看護学専攻を開設
2018（平成30）年	甲南女子大学医療栄養学部を開設 / 大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻を開設
2020（令和2）年	甲南女子大学国際学部を開設

### 3. 設置する学校の状況

#### ■ 学校・学部・学科等の学生（生徒）数の状況（2020年5月1日現在）

学校名	研究科・学部	専攻・学科	入学定員	入学者数 ※1	収容定員	在籍者数	
甲南女子大学	大学院	言語・文学専攻	3	0	9	0	
		心理・教育学専攻	3	0	9	1	
		社会・文化環境学専攻	3	0	9	1	
	大学院	言語・文学専攻	9	0	18	1	
		心理・教育学専攻	13	7	26	15	
		社会・文化環境学専攻	9	2	18	5	
		看護学研究科博士後期課程	看護学専攻	3	3	9	11
		看護学研究科博士前期課程	看護学専攻	5	3	10	12
		大学院合計		48	15	108	46
	甲南女子大学	文学部	日本語日本文化学科	80	84 (3)	320	369
			英語文化学科※2	—	—	360	445
			多文化コミュニケーション学科※2	—	—	210	251
			メディア表現学科	70	82 (1)	280	340
			合計	150	166 (4)	1170	1405
		国際学部	国際英語学科	110	116	110	116
			多文化コミュニケーション学科	80	88	80	88
			合計	190	204	190	204
		人間科学部	心理学科	90	95 (1)	360	418
			総合子ども学科	150	154	600	655
文化社会学科			80	89 (1)	320	393	
生活環境学科			80	89 (2)	320	389	
合計			400	427 (4)	1600	1855	
看護リハビリテーション学部	看護学科	100	105	400	425		
	理学療法学科	60	65	240	247		
	合計	160	170	640	672		
医療栄養学部	医療栄養学科	80	76	240	231		
	合計	80	76	240	231		
	学部合計		980	1043 (8)	3840	4367	
	大学合計		1028	1058 (8)	3948	4413	
甲南女子高等学校	全日課程	普通科	180	188	540	532	
甲南女子中学校			180	191	540	564	
<b>総合計</b>			<b>1388</b>	<b>1437(8)</b>	<b>5028</b>	<b>5509</b>	

(※1) ( ) 内は編入学者数で入学者数の内数

(※2) 2020年度募集停止

#### ■ 収容定員充足率の推移（毎年度5月1日現在）

学校名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
甲南女子大学 学部	1.17倍	1.15倍	1.15倍	1.16倍	1.13倍
甲南女子大学 大学院	0.29倍	0.33倍	0.44倍	0.46倍	0.42倍
甲南女子高等学校	0.97倍	0.98倍	0.95倍	0.95倍	0.98倍
甲南女子中学校	1.00倍	1.03倍	1.05倍	1.05倍	1.04倍

## 4. 学園役員（理事・監事）の概要（2021年3月31日現在）

定数 理事 20名、監事 2名

役職名	氏名	就任年月日	役職名	氏名	就任年月日
理事長	中内 仁	2010.7.10	理事	奈良山 和子	2019.7.10
副理事長	森下 榮生	2014.7.10	理事	青井 さゆき	2017.7.10
理事	森田 勝昭	2016.7.11	理事	樽本 和美	2019.7.10
理事	岡田 明	2015.4.1	理事	長坂 悦敬	2020.7.10
理事	馬場 伸彦	2016.7.11	理事	小西 新右衛門	2018.7.10
理事	野崎 志帆	2020.4.1	理事	角 和夫	2017.7.10
理事	原田 隆司	2019.4.1	理事	宮原 秀夫	2017.7.10
理事	秋元 典子	2018.4.1	理事	平山 一哉	2015.7.10
理事	宇佐美 眞	2018.4.1	理事	下村 雅一	2014.7.10
理事	竹井 誠	2017.4.1	監事	杉本 康	2019.7.11
理事	近藤 三津枝	2013.7.11	監事	阿部 奈穂子	2019.7.10

### ■役員等賠償責任保険契約について

- ・私立学校法に従い、令和2年4月1日より私大協役員等賠償責任保険契約に加入  
（団体契約者：日本私立大学協会 記名法人：学校法人甲南女子学園 個人被保険者：上記役員等）
- ・支払い対象とならない場合として、法律違反に起因する事由等の定めを記載

## 5. 評議員の概要（2021年3月31日現在）

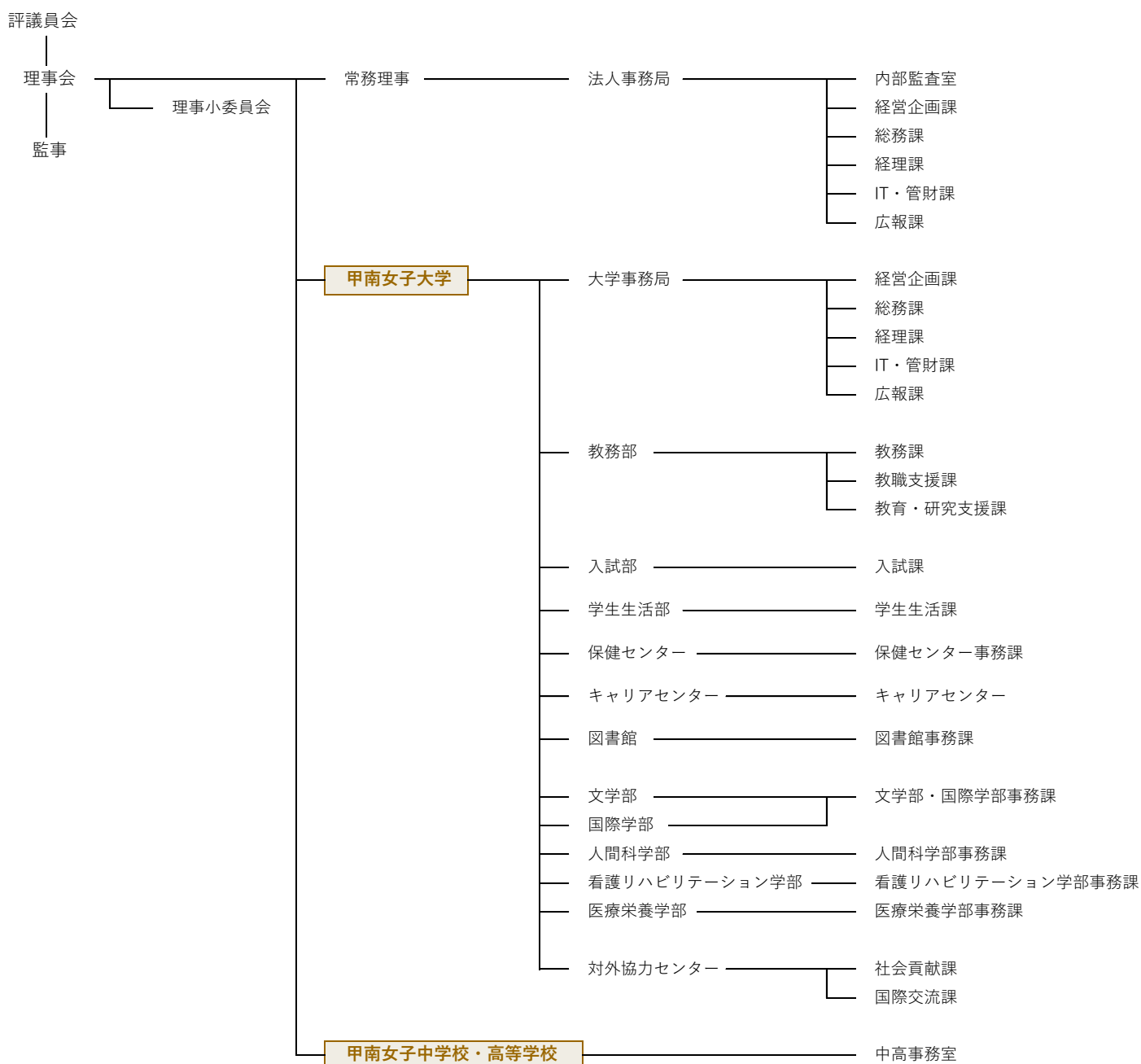
定数 評議員 41名

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
西田 隆政	2020.4.1	秋元 典子	2018.4.1	長坂 悦敬*	2020.7.10
森田 浩一	2020.4.1	宇佐美 眞	2018.4.1	角 和夫*	2016.7.10
西尾 新	2020.7.10	竹井 誠	2017.4.1	宮原 秀夫*	2017.7.10
間瀬 教史	2019.4.1	奈良山 和子*	2017.7.10	近藤 三津枝*	2013.7.10
柴田 克己	2020.4.1	青井 さゆき*	2016.7.10	具 英成*	2021.3.16
中岡 妙子	2020.7.10	濱田 知子*	2020.7.10	石岡 佑佳美*	2019.7.10
深澤 貞信	2018.7.10	池見 博子*	2020.7.10	明石 巧*	2004.7.10
後田 尚宏	2018.7.10	村尾 千彰*	2020.7.10	新川 康*	2019.7.10
田中 昌志	2020.7.10	中内 仁*	2010.7.10	大川 剛*	2019.7.10
森田 勝昭	2016.7.11	森下 榮生*	2014.7.10	岩端 正尚*	2020.7.10
岡田 明	2015.4.1	樽本 和美*	2019.7.10	古元 隆行*	2020.7.10
馬場 伸彦	2016.7.11	小西 新右衛門*	2018.7.10	青木 敦子*	2020.7.10
野崎 志帆	2020.4.1	平山 一哉*	2015.7.10	徳山 真奈美*	2020.7.10
原田 隆司	2019.4.1	下村 雅一	2014.7.10		

\*学外の評議員

## 6. 教職員の概要

### ■ 学校法人組織図 (2021年3月31日現在)



### ■ 専任教職員数 (2020年5月1日現在)

#### ■ 甲南女子大学 (教員)

学部	教授	准教授	講師	特任等	合計
文学部	9	8	8	0	25
国際学部	11	7	4	2	24
人間科学部	31	15	6	3	55
看護リハビリテーション学部	23	10	14	12	59
医療栄養学部	6	5	3	3	17
合計	80	45	35	20	180

#### ■ 甲南女子中学校・高等学校 (教員)

校長	教諭	講師	合計
1	51	11	63

#### ■ 職員 (法人含む)

専任	嘱託	合計
76	10	86

## 1. 2020年度の主要な取り組み

### 01 新型コロナウイルス感染症への対応

#### ❖ 学園・大学・中高運営における危機管理対応

- ・新型コロナウイルス感染症ガイドラインを制定し、検温、手洗い、消毒、3密の回避等、感染防止対策を徹底
- ・2020年度の感染者数は大学15(2)名、中高5(1)名【( )内は教職員】
- ・身だしなみグッズを大学生・中高生に配布し、甲南女子の新しい学校様式の一環である「感染対策の身だしなみ」を実践  
グッズの利用方法を動画作成しYouTubeにて配信
- ・安全を第一に考え、各種行事の中止及び縮小、登学制限等を実施

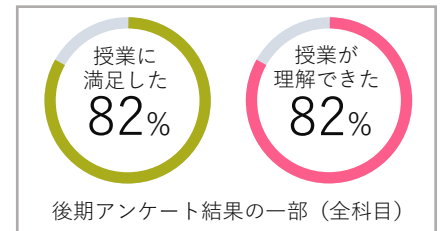


身だしなみグッズ

#### ❖ オンライン授業を活用した学びの継続

- ・中高では4月8日(水)よりGoogle Classroomを活用、大学では4月20日(月)より各種ツール(CampusSquare、Moodle、Teams、Zoom等)を用いてオンライン授業を開始  
自宅等での学修機会を確保し学びを継続させるため、学内外のインフラを整備
- ・学生・生徒のオンライン授業受講環境整備等の支援を目的とし、大学生(学部生)全員、中高生全員に総額約2億4500万円のオンライン授業支援金を給付
- ・大学の前期授業は実験実習科目を除き、オンライン授業で実施
- ・中高では1学期の緊急事態宣言下におけるオンライン授業を夏期休暇中に対面でも実施
- ・大学ではオンライン授業の質の向上を目的とし、アンケートを実施  
各アンケートの分析から授業改善に努めた結果、後期末(対面・オンライン全科目)は約8割の学生が『授業に満足した』と回答

	給付金	対象者数	金額合計
大学	50,000円	4,363名	218,150,000円
中高	25,000円	1,096名	27,400,000円
合計		5,459名	245,550,000円



### 02 甲南女子学園創立100周年記念事業の推進

2020年11月27日に学園創立100周年を迎え、様々な記念事業・ブランディングを推進

#### ❖ 100周年記念式典の延期・記念募金事業について

##### ▶ 記念式典の延期及び創立者慰霊法要の実施

- ・11月28日(土)に予定していた記念式典・祝賀会は、2021年11月20日(土)に延期  
開催方法はリアル開催・オンライン併用開催案を継続検討中
- ・100周年の節目として、11月22日(日)に  
創立者安宅彌吉氏の慰霊法要を西宮市の海清寺にて実施  
安宅家、清光会(本学大学生)、和光会(本学高校生)も参加  
慰霊法要の後、神戸市東灘区田中町の「学園発祥之地」を訪れ  
創立者の遺徳を偲んだ



冊子『創立者 安宅彌吉』



西宮市 海清寺



➤100周年記念募金の状況

- ・募金期間：2017年10月1日～2021年3月31日（3.5年）、目標額：2億円
- ・甲南女子学園創立100周年記念事業計画に要する資金の調達を目的として開始
- 2021年3月31日現在で、合計1,252件
- 寄付総額318,682,596円

3月末現在	件数	金額
法人寄付	68件	131,166,788円
個人寄付	1,184件	187,515,808円
合計	1,252件	318,682,596円

➤甲南女子学園清友会より寄贈

- ・100周年記念碑（中高・大学）  
学園創立100周年を祝い、建学の理念と各校章を文字入れした石碑を中高及び大学へ寄贈
- ・安宅記念講堂緞帳（中高）、第1学生会館4階机・椅子（大学）



100周年記念碑（中高）

❖ 学園キャンパス・施設の整備実施

➤大学正門整備事業

- ・新たな大学キャンパスの顔となる正門を、周辺環境や住宅地への配慮のもと整備
- 特に安全確保を第一として歩車分離を強化し、歩行者・バスの通路幅を拡張
- ・デザイン面では緑豊かなキャンパスを継承し、学園コミュニケーションマークを付したサインを設置

➤清友園の全面改修

- ・老朽化し漏水が激しい清友園を全面的に改修し、バリアフリー化及びエレベーターを設置
- ・改修を祝い、11月12日（木）に清友会参加の竣工式及び内覧会を実施



大学正門前の新サイン



清友園竣工式の様子

❖ 100周年記念ブランディング活動

➤学園コミュニケーションマークの制定と運用

- ・コミュニケーションマーク使用マニュアルを整備し、各ツール（管理棟前フラッグ・名刺・封筒等）で運用
- ・大学、中高の公式マスコットキャラクターを制定



オリジナルバーチャル背景



『Nacoちゃん』  
大学マスコットキャラクター



『WAKOちゃん』  
中高マスコットキャラクター

## II.事業の概要

### ▶ 創立 100 周年記念サイトの運用

(<http://gakuen.konan-wu.ac.jp/100th/>)

- ・ 100 周年記念事業・ブランディングの各取り組みを紹介プロジェクトサイト【「話す・書く・伝える」の 100 年史】では卒業生のエピソード（在学当時）を、社会の動きやメディアとの関わりについて織り交ぜながら 100 年のタイムラインとして公開
- ・ また、メディアの 100 年史として大学教員が実施した特別講義の記録映像を公開



「話す・書く・伝える」の 100 年史

### ▶ 『100 周年記念誌』（副読本）の完成

- ・ 『甲南女子学園 100 周年記念誌』（副読本）を、2021 年 3 月卒業生及び在校生、在学生、教職員に配布記念式典来場者にも当日配付予定
- ・ なお、『甲南女子学園 100 年史』（本誌）については、記念式典（2021 年 11 月）開催と同時にリリース予定



100 周年記念誌（副読本）

### ▶ 100 周年記念音楽会、浮世絵展の開催延期

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020 年度の開催は延期
- ・ 記念音楽会は 2021 年 10 月 9 日（土）に、甲南女子学園芦原講堂で開催予定
- ・ 浮世絵展は 2021 年 11 月 21 日（日）～12 月 21 日（火）に、兵庫県立美術館で開催予定

### ▶ 100 周年記念メッセージ

- ・ 在学生・卒業生から世代を超えたメッセージを募集
- ・ 既に同窓生より 47 件のメッセージを収集、式典での展示等活用を予定

## 03 国際学部の開設について

2020 年度に国際学部を開設し、国際英語学科及び多文化コミュニケーション学科がスタート

### ❖ 国際学部

- ・ 国際学部留学パンフレットの作成、オンラインによる他大学の留学生との交流を実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による海外留学の延期のため、オンライン留学プログラムを実施

### ❖ 国際英語学科

- ・ 卒業時まで全学生が CEFR B1 レベル以上※1 に到達する目標のため、対面やオンラインツール（Skype、Zoom、XReading 等）を活用し英語力を向上させる取り組みを実施



Skype ブースの活用

### ❖ 多文化コミュニケーション学科

- ・ グローバル・シティズンシップ・プログラム※2 を始動
- ・ GCP センターを開設し、コーディネーターが新入生一人一人と面談し、状況把握とケアを実施

（※1）外国語運用能力の国際基準であるヨーロッパ言語共通参照枠 6 段階中上から 3 番目のレベル  
（※2）世界で活躍するための知識やスキルを身に付けるための国内外での体験プログラム



GCP センターでの支援



## 04 第5次中期計画の策定（第4次中期計画の総括）

### ❖ 第5次中期計画（2021～2023年度）を策定

- ・18歳人口及び12歳人口の激減動向に鑑み、2021年度からの3ヶ年計画で取り組む第5次中期計画を策定
- ・第4次中期計画の振り返り、2020年度前期の新型コロナウイルス感染症対応の振り返りを実施  
振り返りの結果浮かび上がった、本学のICT対応の弱みを改善すべく計画
- ・第5次中期計画の実質化を図るため、事業計画の策定方法を見直し、中期計画との連動性を強化
- ・2021年度事業計画を中期計画の初年度施策と位置付け策定
- ・アフターコロナを見据え、ICTを活用した質の高い学びの提供を第5次中期計画で推進



## 05 大学入試改革（中高・新学習指導要領）への取り組み

### ❖ 改革の目標「学力の3要素を確実に育成・評価する」に対応

- ・ICTを活用した、授業（教員）と学習（生徒）の改善を推進
  - 教材、課題等の電子化と配信
  - 教材定時の効率化を図り、対話的な授業を促進
  - 振り返り（アンケート）の活用
- ・オンラインを活用した、学習活動の拡大
  - ネイティブスピーカーとの会話を通じた英語技能の向上
  - 遠隔地からの講話を実現し、課題探究活動を活性化



タブレットを利用した英語学習

## 06 大学ガバナンス改革について

### ❖ 学長と学部長と学科長の連携強化を推進

- ・学長と学部長の連携強化については、教学経営会議、学部長ミーティング等で徐々に浸透
- ・次年度以降、学科長を中心とした学科運営と、学部・学部長を中心とした大学運営を更に密接に構築
- ・コロナ禍における前期の授業対応については、迅速な判断、情報共有・情報伝達に課題が残ったため、次年度以降もガバナンス体制の構築を推進し、総合力・組織力の向上を実践

## 2. 大学・大学院の取り組み

### 01 教育体制

#### (1) 学部教育

##### ❖ 文学部

コロナ禍においても学科学生の実践力向上を目指した取り組みの実施

##### ▶日本語日本文化学科

- ・学科の教員が各々の担当科目のなかで ICT による教育を実践し新たな知見を得るよう尽力
- ・外部講師を招いてのゼミ・実践的授業の推進
- ・オンラインを用いた外部講師によるグループワーク主体の授業
- ・国外の実習を国内に振り替え、対面による実習機会の確保に尽力

##### ▶メディア表現学科

- ・学生が「学び、創造する」空間であるメディアラボの開設に向け、教員間の議論を深めるとともに開設費用を再検討
- ・2年次必修科目のメディア表現発展演習において学科内領域のクロスオーバー化を図るため二人一組の教員で授業を展開
- ・文芸及びワークショップデザインの新任教員を迎え、カリキュラムの多層化を推進

##### ❖ 国際学部

新留学制度の整備（オンライン留学プログラムの開発等）と新たなカリキュラムの実施と評価

##### ▶国際英語学科

- ・英語力強化に向けた外部試験（GTEC-Academic）スコアの授業活用と、オンライン英会話を活用した科目「English to Go」など、新たなカリキュラムの実行
- ・学科開設記念シンポジウム「英語で紡ぐ私たちの未来」を通じたキャリア支援教育
- ・非常勤講師を含む FD 活動（授業公開、ワークショップの開催）

##### ▶多文化コミュニケーション学科

- ・D-Commons※3内に GCP センターを開設し、コーディネーターによる新入生全員の GCP 計画支援及び GCP 情報の一元化を実施
- ・アカデミックスキルズ科目と連動した基礎ゼミをはじめ新たな初年次教育の実施
- ・英語・中国語・韓国語・インドネシア語（文学部のフランス語）教育の FD 定例会、学科専門科目における女性教育カリキュラム FD 活動

（※3）多文化コミュニケーション学科コモンルームの名称

##### ❖ 人間科学部

コロナ禍において人間という複雑で多彩な存在を再確認し、質の高い学際的教養教育と研究を推進  
更に4学科の学びを融合した高大連携講座を実施

##### ▶心理学科

- ・心理学の基礎から応用まで幅広い領域を学ぶ教育を継続
- ・困難な状況下で、公認心理師資格の取得に対応した授業と実習を実施

##### ▶総合子ども学科

- ・多様な子どもの学問領域を理解の上で、実践力を身に付ける教育を実施
- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭をはじめ、多様な領域で活躍する人材の育成を継続実施

##### ▶文化社会学科

- ・社会学を中心として社会の見方や社会との関わり方を考える教育を継続実施
- ・現代社会や文化に関して、学びに必要な資料の収集を継続実施

##### ▶生活環境学科

- ・衣食住を中心に、より充実した多彩な領域から暮らし全体について学ぶ教育を実施
- ・持続可能な社会において求められる汎用性の高い生活スキルを養成するための学習環境を整備

### ❖ 看護リハビリテーション学部

多職種連携教育（IPE：Inter-professional education）の推進を目的に、医療栄養学部や神戸薬科大学との合同授業を実施

更に積極的なFD（ハラスメント防止）の実施

#### ➤看護学科

##### \*看護実践能力の修得

- ・オンラインと対面を併用した授業の実施
- ・シミュレーター活用教育及びアクティブ・ラーニングの推進による看護実践能力の修得
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大により国際的キャリアの探求のための豪州・英国へのスタディツアー延期



成人看護学実習の様子



シミュレーターの活用

#### ➤理学療法学科

##### \*理学療法実践能力の修得

- ・オンラインと対面を併用した授業の実施
- ・臨床実習指導の強化計画は新型コロナウイルス感染症感染拡大により次年度実施予定
- ・ウィメンズヘルス及びスポーツリハビリテーションに関する教育の実施
- ・積極的な高等学校訪問（模擬授業の実施等）による広報活動の維持及び更なる活性化



模擬患者による学内実習

### ❖ 医療栄養学部

オンライン授業と対面授業の特性を活かしたハイブリッド授業を推進

#### ➤医療栄養学科

- ・多種多様な管理栄養士の職域を理解するための導入教育の充実
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた3年生全員の「給食の運営校外実習」(学外実習)を実施
- ・国家試験対策として、過去問題の自己採点及び解説を行い、関連する実力テストを実施
- ・医療栄養学の集大成としての卒業研究によって課題発見と解決能力を育成

## (2) 大学院教育

### ❖ 人文科学総合研究科

- ・各専攻コースで教育と研究の環境整備を継続
- ・2020年度修了者11名に修士の学位を授与

### ❖ 看護学研究科

#### ➤博士前期課程

- ・2020年度修了者7名に修士(看護学)を授与
- ・質の高い教育により豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた研究者、高度な看護実践者を育成

#### ➤博士後期課程

- ・完成年度を迎え、2名に博士(看護学)を授与
- ・看護学教育の質向上に貢献できる力を有した看護教育者、及び自律(自立)した看護研究者、看護管理者を育成

## (3) 学修支援

### ❖ カリキュラム体系

#### ➤建学の理念を反映した教育課程の体系化

- \*各学科の学びと連動しながら領域を超えた知識、視野の獲得を目指す新全学共通教育科目開設
- ・帰属意識を高めることを目的に大学の歴史・理念を深く学ぶ初年次科目「大学を知る」の実施
- ・女性が直面する問題や歴史を学び、変動する社会で生き抜く力を身につける「女性とジェンダー科目」
- ・キャリア形成のための知識やスキルを得てライフデザインを描くための「キャリア支援科目」

## II. 事業の概要

※授業科目を分類し、学問分野や難易度などを番号等で示すナンバリングの活用準備

- ・体系的な履修計画作成を可能にするためシラバスの参照画面にナンバリングによる検索機能を付与

### ❖ アセスメント・テストの活用

▶新型コロナウイルス感染症予防対策として web 受験によるアセスメント・テストを実施

- ・解説動画の配信を含めたアセスメント・テストの結果を読み解く講習会を通じて、リテラシー（知識を活用する力：問題解決力）とコンピテンシー（行動特性：対人基礎力・對自己基礎力・対課題基礎力）の向上のための課題を学生にフィードバック
- ・アセスメント・テストの結果の経年変化に関する分析等、調査活動で得たエビデンスに基づき、本学学生のジェネリックスキル（大卒者に社会人として求められる汎用的な能力・態度・志向）の育成に必要な取り組みを考察

### ❖ 学修成果の可視化

▶学修成果の可視化システム「みらいパス」の活用拡大を検討

- ・全学統一の活用法として第5次中期計画においてディプロマ・サプリメントの作成等を提案

### ❖ コモンルームの取り組み

▶安全・安心・快適なコモンルームの実現

- ・学生が安全安心で快適に過ごせる空間となるようアクリル板の設置、机・イス等の消毒を実施
- ・学生に対し手指消毒やマスク着用を呼びかけ
- ・教職員は学生に寄り添い学習面や生活面での不安を取り除きながら、学生の主体的活動を支援

▶国際学部での新たな取り組み

- ・国際英語学科の e-space※4 では人数制限の下 English Café やハロウィーンイベントなどを実施し英語力のスキルアップを図る取り組みを実施
- ・多文化コミュニケーション学科の D-commons では、十分な感染症対策を取り学生生活を支援 TSL（多文化 Square of Language）を実施し、他大学の留学生とのコミュニケーションの場を提供

（※4）国際英語学科コモンルームの名称

## (4) FD・SD 活動

### ❖ FD※5 の実践

▶オンライン授業を効果的に実践するための授業改善の取り組み

- ・円滑にオンライン授業を行うために必要な知識やスキルの習得を目的とした教員研修の実施（授業形態別ラウンドテーブル・オンデマンド型授業の設計方法等の研修・オンデマンド配信の基本スキル講習、Moodle や Teams を使った双方向の授業の研修）
- ・オンライン授業に対応した授業評価アンケートの実施（ネット通信や端末による受講環境に問題はなかったか、動画やスライド資料の教材は適切な内容であったか等）

（※5）教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み

### ❖ SD※6 の実践

▶研修体系の見直し

- ・職員適性検査（2019年12月実施）の結果分析に基づき、職員力向上を目指し、10月より階層別研修を順次実施

▶通信教育の導入

- ・職員のマネジメント能力育成を企図し、課室員59名に通信教育を実施

<内部研修及び外部研修の参加状況>

主な SD	実施状況	参加数
新任職員導入研修（4月）	途中中止	5名
2年目職員フォローアップ研修（6月）	中止	—
教職員ハラスメント研修（5月）	中止	—
教職員情報セキュリティ研修（4月）	中止	—
副主任・書記研修（11月）	実施	27名
課長補佐/主任研修（11月）	実施	29名
管理職研修（10月/2月）	実施	18名
私学経営研究会	実施	若干名
SPOD フォーラム	中止	—
職員対象通信教育（8～3月）	実施	59名

（※6）教職員が職能を改善し向上させるための組織的な取り組み



## (5) 国際交流の推進

### ❖ 国際学部との連携強化

#### ➤ 国際学部認定留学プログラムの支援体制整備

- ・ 留学説明会をオンラインで協働実施
- ・ 対面留学代替としてのオンライン留学プログラムを協働で検討、募集、実施



### ❖ 海外有力大学との連携強化

#### ➤ 海外大学との協定内容の見直し及び更新

- ・ パリ大学（旧パリ第7大学）と新しい内容の協定を締結準備
- ・ 期限満了する既存の協定について、内容を再検討及び締結準備

### ❖ 海外留学危機管理の強化

#### ➤ 安心・安全な留学を掲げた危機管理の徹底

- ・ 新型コロナウイルス感染症の情勢を注視し、2021年度前期までの留学派遣中止を決定
- ・ 留学誓約書の内容を見直し、留学中の危機管理や渡航中止のリスクなどを考慮した記述に変更
- ・ 安心・安全な留学再開に向けた海外旅行保険の補償内容の見直し

### ❖ コロナ禍に対応した学生サービスの提供

#### ➤ 留学関連情報のオンライン提供

- ・ 従来対面で実施してきた留学説明会を動画配信
- ・ 留学情報をまとめた学内留学ポータルサイト開設
- ・ 協定校や取引業者が実施するオンライン留学プログラムについての情報提供
- ・ イラストやアニメーションを活用した留学説明資料の企画、導入
- ・ 新しい留学様式（オンライン留学、国内交流プログラム）の企画、導入



学内留学ポータル画面

## (6) キャリア教育

### ❖ 文学部・国際学部・人間科学部

#### ➤ 全学年におけるキャリア教育の見直し

- ・ キャリア関連科目については、キャリアデザインⅠ及びⅡを柱とした5科目に集約したことで、学生にとっての授業選択に効果を発揮

- ・ 学生の職業観・勤労観の醸成を

- 目的に、2年生からキャリアガイダンス、3年生次にインターンシップガイダンスを同時双方向型オンラインで開催



- ・ 1年生から3年生それぞれを対象にキャリア通信（年6回）を発行

- ・ 1年生を対象とした授業「大学を知る」で自己の未来とこれからの大学生活を逆算して考える1コマ分の授業をオンデマンド型で実施

#### ➤ OG や上級生によるミライサポートの実施

- ・ 2021年2月に、6名のOG（同窓ピアサポーター）を招きミライサポート（OG や上級生による後輩サポート）を実施

- ・ 同時双方向型オンラインで実施し2～3年生約50名が参加



同窓ピアサポーターの皆様

#### ➤ 新体制による資格サポートセンター始動

- ・ 4月より新たな提携先による資格サポートセンターを立ち上げ、学生のキャリア形成に必要な資格ラインナップ（公務員講座も含む）を充実化

- ・ 一方で、新型コロナウイルス感染症の影響から4月予定の公務員・資格ガイダンスを中止結果、前年度に比べ、年間を通じて申込者が減少



❖ 人間科学部総合子ども学科

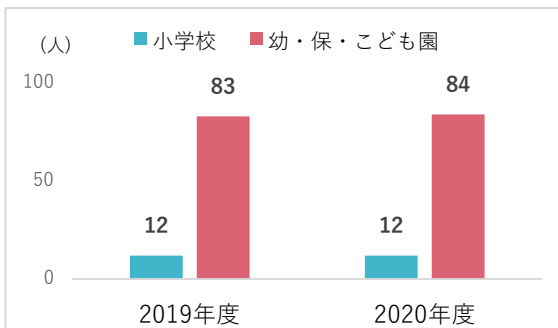
➤オンラインを活用したキャリア教育の実施

- ・教職実践基礎演習、教職実践演習等オンライン授業において、幼稚園・小学校勤務経験のある卒業生から職務の実際について学び、学生のキャリアイメージを明瞭化
- ・公立保育所、公立幼稚園、公立こども園採用試験対策として模擬試験を実施  
第1回は前期に予定していたがオンライン授業期間中で実施見送りとし、第2回は3年生32名を対象に実施

➤2020年度免許・資格取得の概要と就職者数

- ・保育士資格98名、幼稚園教諭第一種免許134名、小学校教諭第一種免許62名が資格・免許を取得
- ・小学校教員採用試験合格者12名(合格率66%)、小学校非正規任用7名、公立保育士・公立幼稚園教諭2名を輩出
- ・公私立幼保こども園・施設就職内定者数は84名(昨年度83名)で昨年度とほぼ同数

<公立小学校 公私幼・保・こども園合格者数推移>



❖ 看護リハビリテーション学部

➤看護学科

- ・きめ細やかな国家試験対策を実施
- ・将来像を描けるように卒業生や現任者をモデルとして提示しイメージ化を促す支援を実施
- ・キャリアプランワークシートを用いた個別支援及び学内就職説明会の開催
- ・品格ある女性専門職者として国際的なキャリアを探究するグローバルキャリア教育を実施
- ・看護学実習ポートフォリオを活用し看護専門職としての個別な成長支援を行うとともに、就職後の継続的な看護実践能力の向上に繋げる活動を実施

<看護学科国家試験合格率等推移>

職種	2018	2019	2020	
看護師	受験者数(名)	95	101	90
	合格者数(名)	94	100	87
	合格率(%)	98.9	99.0	96.7
	全国平均(%)	89.3	89.2	90.4
保健師	受験者数(名)	31	36	34
	合格者数(名)	31	36	34
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
	全国平均(%)	81.8	91.5	94.3
助産師	受験者数(名)	8	7	6
	合格者数(名)	8	7	6
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
	全国平均(%)	99.6	99.4	99.6

➤理学療法学科

- ・国家試験合格率向上のために、CBT(Computer-Based Testing)を利用した効果的な学習の実施
- ・基本的理学療法の実践能力の修得を強化
- ・『理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則』に則り臨床実習指導者講習会を開催
- ・アクティブ・ラーニング、ポートフォリオをより充実・利用した教育を実践

<理学療法学科国家試験合格率等推移>

理学療法士	2018	2019	2020
受験者数(名)	64	56	51
合格者数(名)	61	55	43
合格率(%)	95.3	98.2	84.3
全国平均(%)	85.8	86.4	79.0

❖ 医療栄養学部

➤管理栄養士としてのキャリア意識の醸成

- ・学年進行に合わせて専門職業人となるためのマナー講座、文章作成講座などを提供し、社会人基礎力の強化
- ・学科独自の就職説明会を開催しキャリア支援実施
- ・管理栄養士国家試験合格率の向上のためにアドバイザー教員による個別支援を実施
- ・卒業研究を通じて、自身の将来像を明確化

## 02 研究体制

### (1) 学内の研究助成による研究支援

#### ❖ 学術研究及び教育振興奨励基金等の研究支援

##### ➤ 各種研究助成制度を通じた研究支援の実施

- ・大型の外部資金の獲得に繋げていく事も考慮し助成対象とする研究課題、審査方法、執行方法を点検し、適切な運用を図り、研究支援を実施

### (2) その他の研究助成

#### ❖ 外部研究資金の獲得

外部資金名 【研究代表者分】	単位 (千円)	
	獲得件数 (前年度)	金額 (前年度)
共同研究	2 (3)	850 (2,750)
受託研究	1 (1)	3,900 (3,900)
科学研究費助成事業	43 (43)	42,180 (28,650)

##### ➤ 申請書類の記述に関する点検

- ・確実な採択率の向上を目的とし記入要領に基づく事務的な様式の確認に留まらず、外部の専門機関による記載内容の添削を実施

## 03 学生支援活動

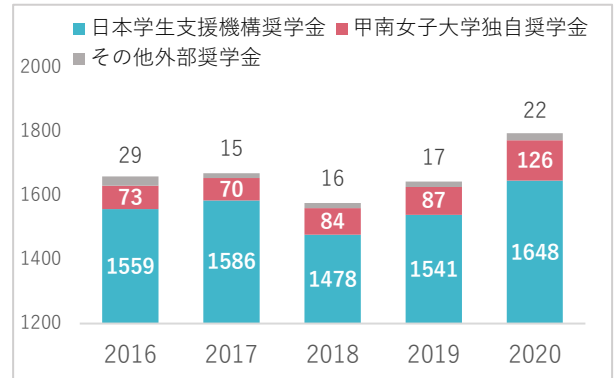
### (1) 学生生活支援

#### ❖ 奨学金事業

##### ➤ コロナ禍による経済的に困難な学生の支援

- ・コロナ禍による経済的苦境に対応するため国の給付型奨学金とは別に、大学独自奨学金である緊急特別奨学金の枠を従来の 10 名から 200 名に臨時で拡大、73 名の出願の内 27 名を採用
- ・今年度開始の「高等教育の修学支援新制度」「学生支援緊急給付金」など新しい奨学金申請に対応した WEB 申請システムを運用

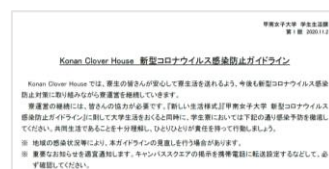
#### < 奨学金受給学生数推移 >



#### ❖ 学生寮運営事業

##### ➤ 安全安心な寮生活の実現

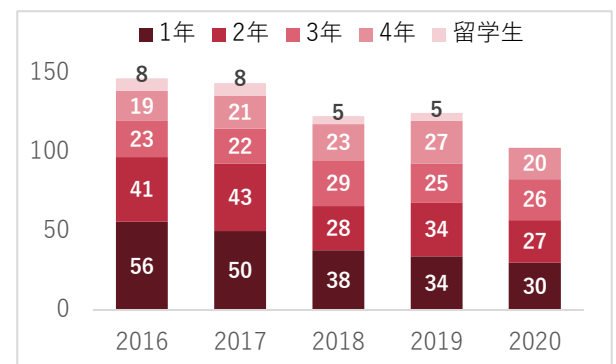
- ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、「Konan Clover House 新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を策定
- ・寮生に毎朝の検温と、「健康調査票」による当日の体調報告を義務化
- ・飛沫感染防止のため食堂での喫食を禁止し食事は自室に持ち帰って食べることをルール化
- ・共有スペースでの間隔確保、換気、消毒を強化
- ・コロナ禍で各種行事（入寮式・新入生歓迎会・忘年会等）が実施できなかったため、それに代えてオンライン懇親会を実施



##### ➤ 今後の学生寮運営についての検討

- ・現建物での学生寮運営について検討し現学生寮の廃止（2024 年 1 月末）と、廃止時点の入居者を他の物件に斡旋することを決定

#### < 入寮者数推移 >



❖ 学生の安全確保

➤ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

- ・食事前後に使用する消毒液の配置、フリースペース及び食堂の座席間隔を最低 1m 以上確保
- ・飛沫感染防止のため食堂座席へアクリル・PET 樹脂製のパーティションを導入



- ・コロナ禍により後期オリエンテーションがWEB開催になったため、書類上での避難経路の確認と安否確認システムの動作確認を実施

❖ 学生サービスの充実

➤ 充実したキャンパスライフへの取り組み

- ・教育後援会の協力を得て強風下でも利用できるグラスファイバー製学内移動専用傘を追加導入



- ・新型コロナウイルス感染防止のため食事時の3密を避けることと、第5次中期計画骨子「キャンパスの活性化」の先取りとして、楽しいキャンパスライフにつながるキッチンカーを試験導入



- ・大学祭については学生の希望を最大限に尊重の上、保健所にも相談し、初日はリアル、二日目はネットのハイブリッド型で実施



大学祭1日目の受付の様子



委員の1年生が企画・作成したモザイクアート

- ・例年実施していた100円朝食については、コロナ禍により今年度は中止

❖ 保健センターの運営

➤ コロナ禍における学生支援及び健康診断の実施

- ・今年度よりこころの支援室に専任の臨床心理士が着任し、新型コロナウイルス感染症の影響により学生が登校できない中、WEBコラムを掲出、メールや電話の活用による予約・カウンセリング・その他サポートを実施
- ・資格課程における実習にも配慮し、厳重な対策（空間・換気・消毒）を行った上で学生健康診断を実施

❖ 障害学生へのサポートについて

➤ きめ細やかなサポート体制の構築

- ・今年度から着任した臨床心理士も学生からの聞き取りや学生支援連絡会議に参加し、サポート体制を強化
- ・ノートテイク希望学生に対して協力学生 25 名、支援実施学生 2 名と協力し 3 回相当の授業支援を実施

<支援を必要とする学生数推移>

	2016	2017	2018	2019	2020
学生支援※7	15	22	19	25	34
学科支援※8	8	8	1	0	0
障害のある学生※9	10	9	6	8	9
観察学生※10	15	61	60	82	69

(※7) 主治医の診断書と本人の主訴を基に学生支援連絡会議により対応を検討する  
 (※8) アドバイザー教員を主体として学科と連携して支援を行う  
 (※9) 障がい者認定を受け、手帳を所有している  
 (※10) 保健センターでの援助を主とし必要に応じてアドバイザー教員への連絡を行う



## (2) キャリア支援

### ❖ 就職支援

#### ➤ハイブリッドな就職支援の実施

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から企業訪問は中止し電話等でのアプローチに切り換え
- ・学生相談体制では4月上旬から同時双方向型オンライン相談に方法を変更し、6月から対面型の相談と併せてハイブリッドにより実施
- ・相談件数は昨年度比146%(1,326件→1,931件(予約相談分のみ)と増加
- ・キャリアセンター主催の講座は、4月予定分は対面実施を中止し、6月から同時双方向型オンライン形式で日程を変更して実施
- ・オンライン形式で開催した講座を動画で配信



#### ➤企業セミナーの積極的な開催

- ・学内企業セミナーは万全な感染症対策のもと効果の高い対面形式と同時双方向型オンライン形式を組み合わせて2月に開催
- ・前年度比6社増の優良企業111社を対象に実施し延べ約5,400人の申し込み受付



#### ➤保証人説明会(3年生)の開催

- ・6月に予定していた対面実施を見送り動画配信に変更、動画を作成し8月から配信を開始

#### ➤2020年度就職率等

- ・大学全体の就職率は97.2%、実就職率は90.8%、就職希望率は92.3%

#### <学科別の就職率等>

	日本語 日本文化	英語文化	多文化 コミュニケーション	メディア 表現	心理
就職率	97.6	96.3	97.1	90.9	93.8
実就職率	90.1	90.3	87.2	80.5	83.5
就職希望率	91.3	93.8	89.7	88.5	79.4
	総合 子ども	文化社会	生活環境	看護	理学療法
就職率	100.0	96.8	98.9	100.0	100.0
実就職率	96.6	96.8	95.6	95.5	85.1
就職希望率	96.6	100.0	96.7	95.5	85.1

### ❖ 教職支援

#### ➤オンラインを活用した教職支援

- ・幼保実践講座では、主に幼稚園や保育所、施設などの現場で役立つ技能や知識を身につける講座をオンライン(Zoom)で実施

#### <幼保実践講座オンライン開催分>

テーマ	開催日	人数
手袋シアター	10/21	3名
エプロンシアター	11/19、11/20	31名

- ・教員採用試験対策講座を見直し、対面・オンラインを併用することで学生の利便性が格段に向上し、参加者数68名と昨年度(18名)より大幅に増加



#### <教員採用試験対策講座受講者数推移>

	2019	2020	
<b>実人数</b>	<b>18</b>	<b>68</b>	
教員試験対策	教職教養	3	33
	一般教養	6	20
	小学校専門	0	15
	人物試験	4	20
共通対策※11	一般知能	5	29※12
	社会科学	5	29
公務員試験対策	自然・人文	6	28
	人物試験	5	20

(※11) 大阪府下教員採用試験対策・公立幼保試験対策

(※12) 一般知能・一般知識(43コマ・26人) / (30コマ・3人)を合算した人数

#### <教員・保育士就職者数>

##### 【教員採用試験対策講座受講生の内※13】

小学校・中高		幼稚園・保育士	
公立中高講師	1名	公立保育士	1名
公立小学校教諭	3名	公立幼稚園教諭	0名
小学校講師	3名	私立保育士	1名
(内2名講師登録結果待ち)		私立幼稚園教諭※14	6名

(※13) 就職状況は1月調査時点での内容

(※14) 幼保連携型認定こども園への内定者は幼稚園教諭に計上

▶学習意欲を高める取り組み

- ・学生の実験意欲を向上させるため教員採用試験、保育士合格者、私立幼稚園・保育所内定者による合格体験談をオンライン（Zoom）で実施
- ・中高教職課程の合同勉強会 Teacher's café を、前期においてはコロナ禍により中止としたが、後期より11回実施（35名参加）
- ・学生のモチベーション維持のためスタンプラリー制度を導入し勉強会に参加しやすい仕組みを整備



▶他大学との連携による免許取得体制の構築

- ・神戸親和女子大学と提携した小学校プログラムの参加募集を実施し、日本語日文化学科及び国際英語学科で1名ずつの応募を受付（2021年度より本格的に始動）

## 04 高大接続・学生募集

### (1) 高大接続改革

❖ 高大接続改革

▶高大接続改革の更なる推進

- ・兵庫県下の私立高等学校2校と人間科学部が連携のもと高大接続講座を実施し、本学の学びの理解を促進
- ・一般選抜において、筆記試験に加え調査書を判定に活用し、多面的総合的評価を推進
- ・一般選抜Ⅲ日程及びⅣ日程において、思考力、判断力、表現力を問うため記述式問題を導入



❖ 高大連携講座

▶甲南女子高校3年生対象に全学部より提供

- ・前期はコロナ禍により開講を延期し、6月より甲南女子高校への出張講座として実施
- ・終了後の受講者アンケートにおいて、満足度4.8点（5点満点中）と過去2年間と比べ大きく上昇（2019年度4.1点、2018年度3.8点）
- ・アンケート結果は次年度に向けて学科と共有

### (2) 学生募集活動

❖ 学生募集活動の強化

▶ハイブリッドな募集活動の実施

- ・コロナ禍により6月のオープンキャンパスは中止したが、7月以降は人数制限等の感染防止対策を講じ、縮小して計6回開催
- ・オンラインツール（LINE、Zoom）による入試相談を実施
- ・体験授業、入試対策講座、学生広報委員会(KANON)による動画をYouTubeで配信



体験授業 YouTube 動画

❖ 外国人留学生の獲得

▶オンラインを通じた新たな入試戦略の推進

- ・海外での募集活動により日本語日文化学科1名（上海）、メディア表現学科2名（上海、香港）が入学
- ・プロモーション動画を制作し、本学の魅力を訴求するとともに、上海、香港においてリモート相談会を実施



海外向けプロモーション動画

❖ 入学試験の状況

▶入学定員確保の一方で昨年度から志願者数減少

- ・総延志願者数は9,818名、対前年度比64.4%となり大幅に減少
- ・大学全体の入学者数は1,031名、入学定員超過率1.05倍

大学全体	2018	2019	2020	2021
総延志願者数(名)	12,332	14,441	15,243	9,818
入学定員(名)	980	980	980	980
入学者数(名)	1,123	1,167	1,035	1,031
定員超過率(倍)	1.15	1.19	1.06	1.05



### (3) 広報活動

#### ❖ 学生募集広報

##### ➤ 募集力の強化に向けた広報戦略の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の影響も受け、受験情報誌等の従来型広告を大幅に見直し機動的なweb広告に重点を移動、その結果接触数の昨年度比が受験情報誌95%であったが、サイト236%に増加
- ・高校を起点にした位置情報を活かしたPR展開は高校の自粛期間も影響し、大幅な伸張はなし
- ・コロナ禍のオープンキャンパスPRとして、受験生の心理動向を念頭に置いた上でコピーを選択
- ・動画の活用など広告素材のDXにより、紙媒体への依存度を下げ、web・交通広告などに横展開
- ・2020年度新設の国際学部PRを継続し、学部オリジナルサイトPV昨年比132%を実現
- ・医療系学部の一層の認知強化を目指したPRとしてweb広告に連動した特設サイトを展開



#### ❖ 一般広報

##### ➤ 効果的な情報発信にむけた取り組み

- ・マスメディアへの情報発信としてのプレスリリース7件（取材件数4件、記事掲載率57%）を実現
- ・SNSによる情報拡散の更なる充実を目指しフォロワー獲得数向上を実現  
昨年度比でFacebook100%、LINE104%、Twitter120%、Instagram175%に向上
- ・学園創立100周年ブランディング活動は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となったものを除き完遂

## 05 環境整備

### (1) キャンパスの整備

#### ❖ 環境の向上

##### ➤ 快適な学習環境の実現

- ・経年劣化が目立つ7号館2階、3階のトイレを改修し、清潔で快適な空間を整備
- ・老朽化した3号館の教室設置椅子、廊下、階段カーペットを改修し、学生の学習環境を向上

#### ❖ 建物維持管理

##### ➤ 安心安全を第一とした施設管理

- ・年間を通じて学園所有建物の適時点検及び修繕工事を実施
- ・全学的な網戸化を推進し、特に老朽化が目立つ5号館（北面、東面）のサッシ、9号館（南面、西面、東面）の外壁に対しては機能改善のための改修を完了

### (2) 情報インフラ整備

#### ❖ 講義室のAV機器更新

##### ➤ 質の高い教育に資する学習環境の構築

- ・経年劣化による機器トラブル解消のため3号館の7教室をデジタル環境へ改修し学生の学習環境を改善

#### ❖ 情報セキュリティ

##### ➤ 情報リテラシー強化に向けた取り組み

- ・教職員のセキュリティに対する意識向上を目的とし、グループウェア等を活用した現状のコンピュータウイルスに対する脅威やウイルス感染による情報漏洩に関する啓蒙活動を実施

#### ❖ 情報ネットワークの拡充

##### ➤ ICTを活用した次世代型教育へのインフラ整備

- ・3号館の3、4階に設置の休憩スペース、及び3号館、7号館、9号館の大教室の無線環境改善
- ・オンライン授業対応のため、対外接続線を1Gbpsから専用線2Gbpsへ増強
- ・基幹スイッチを更新し、トラフィック量増加に対応できるように性能及び耐障害性を向上
- ・次年度から開始する全学的なICTインフラ整備の計画と、学内教職員への周知を実施

## 06 地域連携・社会貢献活動

### (1) 地域連携・社会貢献活動の推進

#### ❖ 震災復興支援事業

- ・東日本大震災復興支援イベントは新型コロナウイルス感染症の影響により中止を決定

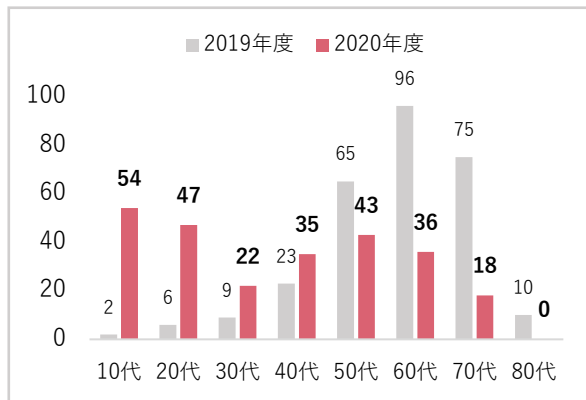
#### ❖ 生涯学習講座

##### ▶オンラインによる講座実施体制の構築

- ・オンラインでの公開講座を2回、生涯学習講座を2回、計4回実施

開催日	タイトル	講師	参加者数
公開講座「誰一人取り残さない社会にするために ～SDGsから考える～」			
10/30	SDGs 入門 ～『暮らし』の中から考える持続可能な社会への参画～	高橋 真央 准教授	163名
11/6	日本の社会保障 ～間違いだらけの年金理解～	林 雅彦 教授	44名
生涯学習講座「戦争 そして タカラヅカ ～心に響く表現とは～」			
11/20	戦争の手触りを語り継ぐ ～映画『蟻の兵隊』上映 & トーク～	池谷 薫 教授	27名
2/26	宝塚歌劇と少女マンガ ～外国・戦争・愛のイメージ～	増田 のぞみ 教授	35名

#### <講座参加者の年代別推移>



### (2) 産学官連携事業

#### ❖ 社会連携事業の見える化

##### ▶学内における社会連携事業一覧の集約と活用

- ・学内の社会連携事業推進状況を調査集約し、事業一覧 (CCR) として大学 HP で公開予定

##### ▶大学都市 KOBE!発信プロジェクトへの参画

- ・グランフロント大阪ナレッジキャピタルでの展示及び合同イベントへ参画



- ・神戸市及び神戸7大学が連携し、春休みの合同イベント (オンラインリレー講義) を実施
- ・展示スペース (1か月間) 企画、調整、展示実施
- ・ナレッジキャピタル定例ミーティング参画 (月1回)

#### ❖ 産学官連携事業の推進

##### ▶産官学連携協定 (神戸市環境局×象印マホービン株式会社×甲南女子大学) の締結

- ・使い捨てプラスチックごみ削減に向けたマイボトルの利用普及など環境関連分野の取り組み推進を目的とした産官学連携協定を締結
- ・マイボトル利用促進に向けた取り組みとして、「mymizu (マイミズ)」アプリ※15 を使用し、「mymizu チャレンジ」を実施



(※15) 一般社団法人 Social Innovation Japan の無料給水案内アプリ

##### ▶包括連携協定に基づく多可町との連携強化

- ・地元産業の6次作業化支援や交流促進を目的としたイベント「多可町健康野菜フェア」を1月27日～29日の3日間、学内で実施



### ▶神戸トヨペット株式会社との連携を強化

- ・SDGs をテーマに神戸トヨペット株式会社と学生が協働でワークショップを実施（12月11日）



### ▶キャリア形成支援のための企業連携事業を開始

- ・ドイツの FEILER 社とコラボし、大学オリジナルハンカチを学生スタッフと協働で作成



## 07 管理運営

### (1) 学園の管理運営体制

#### ❖ 適切な管理運営体制

##### ▶改正私立学校法に基づく学園運営を実施

- ・改正私立学校法に対応した学校法人甲南女子学園寄附行為を2020年4月1日に施行
- ・私立学校法第40条の5の規定に基づき、理事の競業に関して理事会で承認

##### ▶学園運営と危機管理の両立

- ・コロナ禍においても感染防止策を徹底した上で、予定していた全理事会、評議員会及び理事小委員会を開催
- ・2021年度を開始年度とする3ヶ年の中期計画「第5次中期計画」を策定

### (2) 人事制度と労働環境の維持向上

#### ❖ 職員人事制度

##### ▶学園の課題を支える職員の昇格選考を実施

- ・人事制度に基づき昇格選考を実施し、2021年4月から3等級（副主任）へ6名、5等級（課長補佐）へ1名が昇格

#### ❖ 労働環境の維持向上

##### ▶各種規程の見直しと制定

- ・2020年12月に労働者の過半数代表者選出規程を作成、2021年度から施行
- ・2021年2月に契約職員就業規則案を作成、過半数代表者選出後に意見をいただき周知を図る予定

##### ▶教職員の健康確保措置の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により例年と実施方法を変更し教職員の健康診断を実施、受診率は2年連続100%（学外受診を含む）
- ・ストレスチェック受検率は昨年度から11ポイント上昇し、84%

### 3. 中学校・高等学校の取り組み

#### 01 教育体制

##### (1) 新しい時代の教育課程の編成

- \* 教科横断の「カリキュラム委員会」にて、新学習指導要領（中学校 2021 年度より全学年、高等学校 2022 年度入学生から学年進行）に準拠したカリキュラムを策定
  - ・総合学習検討委員会（2019 年度）の提言に基づく「総合的な学習の時間」（中学校）、「総合的な探究の時間」（高等学校）の設置
  - ・各教科で育むべき力を育成する新しいカリキュラムを策定
  - ・各教科会における議論の活性化



「総合学習・探究」の概要

#### 02 授業力向上

##### (1) 各「教科会」の活性化

- \* 新学習指導要領に対応した授業方法及びテスト出題方法の検討
- \* 大学入学共通テストへの対策・研究
- \* 教科指導における ICT 活用の推進（プロジェクト、電子黒板、タブレット、ネットワークの活用）
  - ・新型コロナ感染症拡大防止のための一斉休校時にタブレットを用いたオンライン授業や課題配信、提出等

##### (2) 授業評価（授業アンケート）

- \* 実施方法の見直し
  - ・今年度導入したタブレットを使用
  - ・アンケート実施後、各授業担当者が迅速に集計し授業改善へ取り組み
- \* アンケート項目の見直し
  - ・項目を精選することで改善すべき項目を明確化

#### 03 総合学習

##### (1) フィールドワーク・対話を重視した人間教育

- \* 「平和」（中学 2 年生）
  - ・一日研修、研修旅行は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み中止
  - ・本校内で講話を実施
  - ・中学 1 学年へのプレゼンテーションを実施
- \* 「保育」（中学 3 年生）
  - ・保育実習は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み中止
  - ・家庭科授業でペープサート（登場人物などを絵に描いて棒の両側に貼り合わせた人形を用いる紙人形劇）を制作
- \* 「探求」（高校 1 年生）
  - ・講座別活動（5 講座）、講座内発表やリモート・本校内での講話を実施
  - ・水俣研修旅行は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み中止したが水俣からリモートで講話を実施
  - ・甲南女子大学人間科学部心理学科との連携活動



##### (2) 新教育課程への対応

- \* 教育方針「自学創造」の継承
- \* 新教育課程の「総合学習」、「総合探究」に沿った更なる「学び」の構築、来年度より開講予定



## 04 生徒指導

### (1) 担任団との連携強化

- \* 生徒指導上の情報共有や共通理解を学年担任と徹底
- \* 生徒の安全対策として、登下校時の見守り、防災・避難訓練、救命方法の講習などを実施
- \* 「いじめ対策委員会」を機軸として不登校やいじめなどに対応、生徒が安心して通学・成長できる環境を強化
  - ・教育相談委員会、学年担任、生徒指導部、養護教諭、スクール・カウンセラーが連携し、問題を早期に見・対応

### (2) 生徒の自立心向上につながる指導

- \* 社会生活上の基本となる学校生活(挨拶・清掃・整理整頓など)の指導を強化
- \* 文化祭指導の重点を、催しの規模・集客数にこだわらない質的転換を目指す方向へ移行
- \* 全校集会の制限された生徒会活動において、ICT 機器を活用した学年・クラスの枠による取り組みを追求

## 05 国際交流

### (1) 異文化理解

- \* 協定校間の生徒による国際交流を支援
  - ・ポストカードの発送及びポスター制作による日本文化紹介の実施
    - 培花女子高校(韓国)、南洋女子高校(シンガポール)ボンフェッファー・ギムナジウム(ドイツ)
  - ・国際親善・環境委員会、E.S.S.部員、有志生徒が作成



日本文化紹介ポスター

### (2) 2020 年度留学日程

- \* 今年度の留学派遣・受け入れ及び短期語学研修を中止
- \* 来年度以降新型コロナウイルス感染拡大状況の改善時に向けた協定校への派遣準備

## 06 進路指導

### (1) 2021 年度大学入試合格実績

- \* 2021 年度大学入試 合格者数・進学者数

	合格者数			進学者数		
	現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
国立大学	26	7	33	23	7	30
公立大学	16	1	17	13	1	14
甲南女子大学	128	0	128	19	0	19
他の私立大学	413	32	445	97	5	102
その他の大学	3	0	3	2	0	2
進学準備	—	—	—	14	0	14
合計	586	40	626	168	13	181

- ・国公立大医学部医学科合格者数 5 名(内 3 名既卒)
- ・私立大医学部医学科合格者数 11 名(内 7 名既卒)
- ・関学,関大,同志社,立命館合格者数 189 名(内 12 名既卒)

### (2) 基礎期における学習習慣の確立

- \* 本校でのあるべき学習方法を明確にし、定着をはかる
  - ・入学時に『家庭学習の手引き』を配付し、各教科について家庭学習の方法を徹底
- \* 「スケジュール帳」を活用した時間管理や学習計画の立て方を指導



### (3) 「キャリア教育」の体系化

- \* 「キャリア教育」体系化
  - ・高校 1 年 LHR※16 においてタブレットを活用し、学問分野ごとに大学での学びを研究してクラスで発表



(※16) ロングホームルーム



## II.事業の概要

- ・オンラインで26校の大学と大学説明会を実施
- ・読売教育ネットワーク「早期医療体験プログラム」にオンラインで参加(大阪大医学部・東京医科歯科大学医学部)



オンライン大学説明会



早期医療体験プログラム

### (4) 教科指導の充実

- \* 大学入学共通テストに向けた授業の改善
- \* 模擬試験を活用した弱点補強、振り返りの実施
- ・模試直後の自己採点の実施と振り返り

## 07 生徒募集対策

### (1) 広報活動

- \* 充実した教育環境や取り組みの積極的な発信
- ・中高HPでは、時代に合ったメディアの利用、生徒が施設を案内する動画など掲載
- ・学校説明会はコロナ禍での対応としてオンライン学校説明会・人数限定の学校説明会・小規模の学校見学会に切り替え
- ・校外説明会、塾訪問：可能な限り足を運び、子供を育てる目線で甲南女子を伝える地道な広報活動、オンラインサポートサービスの利用
- \* 創立100周年関連の発信
- ・「人間教育」を軸とした100年の伝統の周知
- ・生徒たちの今をリアルに伝えるコンセプトの元、生徒のボランティア活動「100周年記念実行委員会」、3年間の活動により『つながる』冊子・動画完成



ボランティアの生徒が企画・デザイン・制作に大きく携わった100周年記念グッズ

## 08 施設・設備

### (1) 安心安全な教育環境の整備

- \* 教育環境の整備(新型コロナウイルス感染症感染防止対策と衛生環境整備など)
- ・特別棟/第2特別棟/管理棟/講堂/図書館/食堂/ダンス室に換気用網戸設置
- ・入構時の検温用サーモカメラ及び全館にアルコール消毒液の設置
- ・特別棟/管理棟/講堂の水回り改修とウォシュレットの設置
- ・前庭周り外灯、図書館照明のLED化
- ・体育館1階/運動部部室・更衣室等床全面張替え



## 09 高大連携

### (1) 中高生徒対象

- \* 甲南女子大学看護学科による中学3年生を対象とした衛生講話の実施
- \* 国際学部教授による高校1年「探求」(福祉班)での講演
- \* 甲南女子大学の学部説明会・施設見学(高校3年生及び高校保護者対象)を実施

### (2) 大学生対象

- \* 心理学科「心理実習」の受け入れ
- ・中高教員による実習生(大学生)への講話を実施
- ・高校1年「総合探求」の授業への参加

## 10 部活動

### (1) 安全かつ積極的な部活動の推進

- \* 「部活動ガイドライン」に基づく指導方針を遵守
- \* 活動時間の短縮された部活動において、活動計画の効率性を追求

## 1. 2020 年度決算の概要

### ■ 2020 年度決算の概要

2020 年度は新設した医療栄養学部が 3 年目となり、学生数増加に伴う学生生徒等納付金収入が増加した。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う感染防止対策費用や学生生徒へのオンライン授業支援金の支出があったため、2019 年度に比べて経費が増加した。基本金組入前当年度収支差額は 4 億 9,878 万円となり、事業活動収支差額比率は 6.3%となった。

### ■ 事業活動収支決算の概要

事業活動収支計算は、当該年度の事業収入・支出を「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」に区分し、それぞれの収支の均衡状態を明らかにするとともに、学校法人の純資産の増減を表す計算書である。

単位（千円）

科 目		予算	決算	差異	科 目		予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,504,045	6,533,308	△ 29,263	特別収支	資産売却差額	0	0	0
	手数料	120,075	101,071	19,004		その他の特別収入	45,000	77,828	△ 32,828
	寄付金	20,000	34,816	△ 14,816		特別収入 計	45,000	77,828	△ 32,828
	経常費等補助金	409,850	734,875	△ 325,025		資産処分差額	20,000	71,126	△ 51,126
	付随事業収入	74,000	68,919	5,081		その他の特別支出	0	0	0
	雑収入	117,000	154,847	△ 37,847		特別支出 計	20,000	71,126	△ 51,126
	教育活動収入 計	7,244,970	7,627,834	△ 382,864		特別収支差額	25,000	6,702	18,298
	人件費	3,921,077	3,884,341	36,736		予備費(※)	(50,000)		
	教育研究経費	2,608,313	2,658,636	△ 50,323			0		0
	管理経費	954,443	848,196	106,247		基本金組入前当年度収支差額	23,822	498,781	△ 474,959
	徴収不能額等	0	0	0		基本金組入額	△ 930,213	△ 458,098	△ 472,115
	教育活動支出 計	7,483,833	7,391,173	92,660		当年度収支差額	△ 906,391	40,683	△ 947,074
	教育活動収支差額	△ 238,863	236,661	△ 475,524		前年度繰越収支差額	5,326,118	5,326,118	△ 0
教育活動外収支	受取利息・配当金	237,685	255,418	△ 17,733	翌年度繰越収支差額	4,419,727	5,366,802	△ 947,075	
	その他の教育活動外収入	0	0	0					
	教育活動外収入 計	237,685	255,418	△ 17,733	(参考)				
	借入金等利息	0	0	0	事業活動収入 計	7,527,655	7,961,081	△ 433,426	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	事業活動支出 計	7,503,833	7,462,299	41,534	
教育活動外支出 計	0	0	0						
教育活動外収支差額	237,685	255,418	△ 17,733						
経常収支差額	△ 1,178	492,079	△ 493,257						

※予備費の上段（ ）内は使用額、下段は残高です。  
使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

学校法人の本業である教育研究活動による収支を表している「教育活動収支」は学生生徒等納付金や手数料、寄付金、補助金等の収入の合計 76 億 2,783 万円から人件費、教育研究経費、管理経費の合計 73 億 9,117 万円を差し引いた結果、2 億 3,666 万円の収入超過となった。

財務活動による収支を表している「教育活動外収支」は受取利息・配当金のみの 2 億 5,541 万円であり、「教育活動収支」と「教育活動外収支」の合計である経常収支差額は 4 億 9,207 万円の収入超過となった。

臨時的な収支を表している「特別収支」は現物寄付や施設設備に関する寄付金及び補助金による収入 7,782 万円から資産処分差額 7,112 万円を差し引いた結果（特別収支差額）670 万円となり、経常収支差額と特別収支差額の合計である基本金組入前当年度収支差額は 4 億 9,878 万円の収入超過となった。

■過去5年間の推移

単位(千円)

科 目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育 活動 収 支	学生生徒等納付金	5,909,904	5,886,772	6,117,899	6,438,843	6,533,308
	手数料	104,374	115,023	122,894	129,267	101,071
	寄付金	1,514	70,574	51,852	68,364	34,816
	経常費等補助金	422,612	472,984	568,527	485,331	734,875
	付随事業収入	81,494	79,830	87,578	84,570	68,919
	雑収入	186,039	137,192	128,194	90,017	154,847
	教育活動収入 計	6,705,937	6,762,376	7,076,944	7,296,392	7,627,834
	人件費	3,623,364	3,718,889	3,829,665	3,763,619	3,884,341
	教育研究経費	1,785,800	1,759,357	1,987,985	2,144,999	2,658,636
	管理経費	790,657	758,705	737,823	907,207	848,196
	徴収不能額等	1,392	343	967	0	0
	教育活動支出 計	6,201,214	6,237,294	6,556,439	6,815,825	7,391,173
	教育活動収支差額	504,723	525,082	520,505	480,567	236,661
	教育 活 動 外 収 支	受取利息・配当金	118,819	150,339	195,579	238,225
その他の教育活動外収入		0	0	0	0	0
教育活動外収入 計		118,819	150,339	195,579	238,225	255,418
借入金等利息		0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0
教育活動外支出 計		0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	118,819	150,339	195,579	238,225	255,418	
経常収支差額	<b>623,542</b>	<b>675,421</b>	<b>716,083</b>	<b>718,791</b>	<b>492,079</b>	
特 別 収 支	資産売却差額	6,559	2,023	4,565	0	0
	その他の特別収入	50,712	36,983	59,481	73,146	77,828
	特別収入 計	57,271	39,006	64,046	73,146	77,828
	資産処分差額	132,228	28,914	24,443	39,947	71,126
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出 計	132,228	28,914	24,443	39,947	71,126
	特別収支差額	△ 74,957	10,092	39,603	33,199	6,702
基本金組入前当年度収支差額	548,585	685,513	755,686	751,990	498,781	
基本金組入額	△ 919,928	△ 3,808,904	△ 466,629	△ 586,255	△ 458,098	
当年度収支差額	△ 371,343	△ 3,123,390	289,057	165,735	40,683	
前年度繰越収支差額	8,293,059	7,994,716	4,871,326	5,160,383	5,326,118	
翌年度繰越収支差額	7,994,716	4,871,326	5,160,383	5,326,118	5,366,802	
(参考)						
事業活動収入 計	<b>6,882,028</b>	<b>6,951,721</b>	<b>7,336,569</b>	<b>7,607,762</b>	<b>7,961,081</b>	
事業活動支出 計	<b>6,333,442</b>	<b>6,266,208</b>	<b>6,580,882</b>	<b>6,855,772</b>	<b>7,462,299</b>	

## ■ 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対するすべての資金の流れを表した計算書である。収入及び支出の内容、ならびに支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにする。

収入の部				支出の部			
科 目	予算	決算	差異	単位 (千円)			
				科 目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	6,504,045	6,533,308	△ 29,263	人件費支出	3,881,661	3,871,048	10,613
手数料収入	120,075	101,071	19,004	教育研究経費支出	1,721,674	1,810,694	△ 89,020
寄付金収入	65,000	95,546	△ 30,546	管理経費支出	877,826	791,175	86,651
補助金収入	409,850	740,668	△ 330,818	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	2,231,000	4,446,273	△ 2,215,273	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	74,000	68,919	5,081	施設関係支出	643,124	515,395	127,729
受取利息・配当金収入	237,685	255,418	△ 17,733	設備関係支出	287,089	193,130	93,959
雑収入	117,000	154,622	△ 37,622	資産運用支出	4,531,000	5,021,304	△ 490,304
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	729,374	725,618	3,756
前受金収入	1,007,590	1,075,843	△ 68,253	予備費(※)	(50,000)		
その他の収入	1,938,032	427,361	1,510,671		0		0
資金収入調整勘定	△ 1,199,473	△ 1,199,292	△ 181	資金支出調整勘定	△ 469,557	△ 459,733	△ 9,824
前年度繰越支払資金	6,978,494	6,978,494	△ 0	翌年度繰越支払資金	6,281,107	7,209,597	△ 928,490
<b>収入の部合計</b>	<b>18,483,298</b>	<b>19,678,228</b>	<b>△ 1,194,930</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>18,483,298</b>	<b>19,678,228</b>	<b>△ 1,194,930</b>

※予備費の上段 ( ) 内は使用額、下段は残高です。  
使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

収入については学生生徒等納付金収入や手数料収入、寄付金収入、補助金収入に資産売却収入（主に有価証券の満期償還）等を加えた 126 億 9,973 万円となった。一方、支出については人件費支出や教育研究経費支出や管理経費支出に、施設設備への支出や資産運用支出等を加えた 124 億 6,863 万円となった。収入から支出を差し引いた 2 億 3,110 万円が、支払資金の増加として前年度から繰越されてきた支払資金とあわせて 72 億 959 万円が翌年度に繰り越される。

## ■ 過去 5 年間の推移

収入の部 単位 (千円)						支出の部 単位 (千円)					
科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	5,909,904	5,886,772	6,117,899	6,438,843	6,533,308	人件費支出	3,670,872	3,689,178	3,818,483	3,757,092	3,871,048
手数料収入	104,374	115,023	122,894	129,267	101,071	教育研究経費支出	1,163,160	1,134,525	1,207,537	1,324,747	1,810,694
寄付金収入	45,127	100,374	95,052	133,164	95,546	管理経費支出	740,165	707,553	682,014	850,338	791,175
補助金収入	422,612	472,984	568,527	487,561	740,668	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
資産売却収入	2,865,256	2,104,853	1,639,524	3,478,379	4,446,273	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	81,494	79,830	87,578	84,570	68,919	施設関係支出	1,026,769	3,061,585	253,922	424,561	515,395
受取利息・配当金収入	118,819	150,339	195,579	238,225	255,418	設備関係支出	340,050	884,118	210,380	429,640	193,130
雑収入	186,039	137,192	128,194	89,808	154,622	資産運用支出	5,600,910	3,686,733	2,857,352	4,036,426	5,021,304
借入金等収入	0	0	0	0	0	その他の支出	499,831	680,878	735,190	653,913	725,618
前受金収入	1,056,978	1,140,545	1,188,086	1,075,090	1,075,843	資金支出調整勘定	△ 485,375	△ 524,709	△ 413,159	△ 527,395	△ 459,733
その他の収入	2,450,334	4,338,512	876,637	336,948	427,361	翌年度繰越支払資金	6,212,912	6,251,267	6,688,741	6,978,494	7,209,597
資金収入調整勘定	△ 1,250,371	△ 1,168,209	△ 1,230,777	△ 1,252,780	△ 1,199,292	<b>支払の部合計</b>	<b>18,769,293</b>	<b>19,571,128</b>	<b>16,040,459</b>	<b>17,927,816</b>	<b>19,678,228</b>
前年度繰越支払資金	6,778,728	6,212,912	6,251,267	6,688,741	6,978,494						
<b>収入の部合計</b>	<b>18,769,293</b>	<b>19,571,128</b>	<b>16,040,459</b>	<b>17,927,816</b>	<b>19,678,228</b>						



## 貸借対照表の概要

貸借対照表は、年度末における学校法人の資産、負債、純資産（基本金及び繰越収支差額）を対照する計算書である。これまで学校法人が行ってきた活動の積み重ねの財政状況を表す。

資産の部				負債の部			
科 目	単位 (千円)			科 目	単位 (千円)		
	2020年度	2019年度	差異		2020年度	2019年度	差異
固定資産	44,371,146	44,159,289	211,857	固定負債	1,157,068	1,143,775	13,293
有形固定資産	23,581,957	23,825,363	△ 243,405	退職給与引当金	1,157,068	1,143,775	13,293
土地	5,469,947	5,469,947	0	流動負債	1,835,557	1,789,623	45,935
建物	12,575,083	12,740,945	△ 165,862	前受金	1,075,843	1,075,090	753
その他	5,536,928	5,614,471	△ 77,543	その他	759,715	714,533	45,182
特定資産	13,740,611	13,415,420	325,191	<b>負債の部合計</b>	<b>2,992,625</b>	<b>2,933,397</b>	<b>59,228</b>
その他の固定資産	7,048,578	6,918,506	130,071	<b>純資産の部</b>			
有価証券	6,910,582	6,764,186	146,396	単位 (千円)			
その他	137,996	154,321	△ 16,325	基本金	43,463,051	43,004,954	458,098
流動資産	7,451,333	7,105,180	346,152	第1号基本金	41,209,051	40,850,954	358,098
現金預金	7,209,597	6,978,494	231,103	第3号基本金	1,810,000	1,710,000	100,000
未収入金	123,726	63,944	59,783	第4号基本金	444,000	444,000	0
その他	118,009	62,742	55,267	繰越収支差額	5,366,802	5,326,118	40,683
				翌年度繰越収支差額	5,366,802	5,326,118	40,683
<b>資産の部合計</b>	<b>51,822,478</b>	<b>51,264,469</b>	<b>558,009</b>	<b>純資産の部合計</b>	<b>48,829,853</b>	<b>48,331,072</b>	<b>498,781</b>
				<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>51,822,478</b>	<b>51,264,469</b>	<b>558,009</b>

2020年度末の資産総額は518億2,247万円でその内訳は有形固定資産235億8,195万円、特定資産137億4,061万円、その他の固定資産70億4,857万円、流動資産74億5,133万円となっており、昨年度から5億5,800万円増加した。増加の主な要因は有価証券、特定資産の積立投資である。

一方、負債の総額は29億9,262万円でその内訳は固定負債11億5,706万円と流動負債18億3,555万円である。

また、基本金は第1号基本金が3億5,809万円増加し412億905万円、第3号基本金が1億円増加し18億1,000万円、第4号基本金は変わらずの4億4,400万円で総額としては434億6,305万円となった。繰越収支差額は昨年度より4,068万円増加して53億6,680万円となっている。

## 過去5年間の推移

科 目	単位 (千円)				
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	42,508,462	43,387,813	43,685,471	44,159,289	44,371,146
流動資産	6,447,082	6,421,254	6,837,389	7,105,180	7,451,333
<b>資産の部合計</b>	<b>48,955,545</b>	<b>49,809,067</b>	<b>50,522,861</b>	<b>51,264,469</b>	<b>51,822,478</b>
固定負債	1,096,355	1,126,066	1,137,248	1,143,775	1,157,068
流動負債	1,721,307	1,859,606	1,806,531	1,789,623	1,835,557
<b>負債の部合計</b>	<b>2,817,662</b>	<b>2,985,671</b>	<b>2,943,779</b>	<b>2,933,397</b>	<b>2,992,625</b>
基本金	38,143,166	41,952,070	42,418,699	43,004,954	43,463,051
翌年度繰越収支差額	7,994,716	4,871,326	5,160,383	5,326,118	5,366,802
<b>純資産の部合計</b>	<b>46,137,882</b>	<b>46,823,396</b>	<b>47,579,082</b>	<b>48,331,072</b>	<b>48,829,853</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>48,955,545</b>	<b>49,809,067</b>	<b>50,522,861</b>	<b>51,264,469</b>	<b>51,822,478</b>

## 2. 財務比率の推移

### ■事業活動収支計算書関係比率

単位 (%)

財務比率	算式 (×100)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	86.6	85.2	84.1	85.5	82.9
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.8	1.5	1.5	1.9	1.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	6.1	6.8	7.7	6.4	9.3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.1	53.8	52.7	50.0	49.3
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	26.2	25.5	27.3	28.5	33.7
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	11.6	11	10.1	12.0	10.8
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	9.1	9.8	9.8	9.5	6.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.0	9.9	10.3	9.9	6.3

### ■貸借対照表関係比率

単位 (%)

財務比率	算式 (×100)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{純負債+純資産}}$	94.2	94.0	94.2	94.3	94.2
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産-外部負債}}{\text{経常支出}}$	4.3	3.9	3.9	3.9	3.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	374.5	345.3	378.5	397.0	405.9
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	5.8	6.0	5.8	5.7	5.8
前受金保有率	$\frac{\text{現金・預金}}{\text{前受金}}$	591.5	551.6	566.5	653.0	679.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.6	99.5	99.8	99.7	99.8
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	154.4	136.5	137.0	136.4	136.4



〒658-0001 兵庫県神戸市東灘区森北町 6 丁目 2 番 23 号  
<https://www.konan-wu.ac.jp/>

